

第3回 JR山陰本線 維持・利用促進ワーキングチーム (WT)

■日 時：令和4年12月7日（水）14:15～16:15

■場 所：香美町役場本庁舎3階 大会議室

■参加者：別添のとおり

■検討結果のとりまとめに対する意見交換

(但馬地域商工会振興協議会会長)

- ・インバウンドが増える可能性を考慮し、特急バスや特急列車の本数を増やして、観光につなげてはどうか。

(但馬県民局長)

- ・サービスレベルをあげるのは重要で、列車利用者の視点になって、免許がない方にも但馬に来て楽しんでいただけるようにすることが必要。
- ・まずは、バスへの接続など事業者間の連携を強化しながら、利用者が増加すればJRも増便を検討してくれるのでは。

(但馬観光協議会会長)

- ・観光客の視点になれば、JR・バスなどのすべての移動手段を相互に補完しながら、利便性の高いネットワークを構築することが大事。
- ・報告書の中、資料2の「5 今後の展開」で、交通連合についてはもう少し明確に記載すべきでは。

(事務局 (但馬県民局))

- ・交通連合の設立は重要であるため、どのように記載するかは事務局で相談し、最終的にWT代表の豊岡市 関貫市長とも相談しながら検討していく。

(養父市まち整備部次長)

- ・単体の市町ではなく、管内で連携して検討していくべきとの考えから、3市2町と県民局で公共交通問題研究会を立ち上げてこれまでに3回議論している。JRへ要望だけをして、自分たちは何もしないというスタンスはいけない。地域も汗をかいて、知恵を絞る必要がある。

(朝来市長)

- ・資料2にもあったが、車での来訪者が9割という現状。但馬県民局から、まるごと感動市の公共交通機関の利用促進の報告があったが、公共交通機関利用を促す内容を記載したパンフレットを、JRで129枚、路線バスで12枚配布したという結果報告を受けている。今後のイベントにおいても、パンフレット等にJR利用を促す記載をすることが重要である。

(JR 福知山管理部長)

- ・いろいろなご意見をいただき感謝申し上げます。輸送密度2,000人未満線区については鉄道の

特性を発揮できていない線区として問題提起をしたが、兵庫県を含め沿線市町の皆様にはいち早くご対応いただいた。

- ・今回整理された利用促進策については、これまで以上に地域の皆様と協働しながら、スピーカーに対応する必要がある。これまでと同じことをやっても2,000人は達成できない。
- ・これまでも、同様に利用促進に取り組んできたが結果として厳しい状況にある。今までと同じことをやっても結果が出ないと認識しており、これまで以上の協働・連携をお願いしたい。
- ・利用促進と並行して、地域のニーズを把握する必要がある。地域の公共交通のありかたについての議論も今後も深めていきたい。
- ・WT は今回で終わりだが、引き続き議論の場をつくり、「交通連合」の設立についても議論をしたいと考えている

(JR 兵庫支社長)

- ・ローカル線の問題は JR だけでは解決できない。山陰本線 WT は本質的な課題について、理解いただいているところに感謝申し上げる。
- ・兵庫 DC を契機に但馬地域に足を運んでいただけるように努力したい。この夏からサイコロ切符を販売したが、予想以上のヒット商品となった。最近は旅行ができてない方に刺さり、かなり賑わったと感じているので、今後も知恵を絞ってやっていきたい。いろんな方の発想や知恵が必要なので、引き続きこのように議論していきたい。

((株) たびぞう代表取締役)

- ・サイコロ切符をきっかけに若い方がたくさん来られ、事業者として、恩恵を受けたと感じている。報告書の中に、提案させていただいたマーケティングリサーチというのがある。サイコロ切符は、成功したひとつの事例として、「実際になぜ利用したのか」を把握し、地域の方にサイコロ切符の先をどこにするか、そういう機会をつくるので一緒になにかしようという働きかけなどの連携をお願いできたらうれしい。JR が考えていることを地域と一緒にあって、作りあげ、利用促進を図るという流れができると良い。

(JR 兵庫支社長)

- ・サイコロ切符は、コロナ禍で利用状況が厳しい中、帰還の需要を促進するために何かできないかという議論の中で生まれたもので、想像以上の利用があった。5,000 円という破格での打ち出しなので一般の利用がもどってくると、実施するのは難しいというのが本音である。
- ・一方で、マーケティングリサーチの観点で商品開発を行うことは重要であり、利用者目線で高度・多角化したニーズにしっかりとアンテナを張って企画を考えていきたい。いただいた意見を踏まえて、引き続き商品開発をしていきたい。

(全但バス (株) 代表取締役)

- ・資料 2 の 2 ページ、「(3) 異なる交通事業者との連携が不足している」については問題意識を持っている。ご指摘のとおり、連携がとれていない実態がある。時刻表、案内表示、運賃の

精算方法（キャッシュレス決済等）について、社内の体制の問題、経費の問題などはあるが、先延ばしにせずに取り組んでいきたい。交通連合の設立については大賛成であるので、今後どういう関わり方になるかはまだ不透明だが、積極的に関わっていきたい。

（ブンダバー代表）

- ・資料2の9ページ、「4 目標」の値について、この数値を実現するには観光だけでは厳しいが、日常利用を目指すには本数が少ないと感じる。列車本数を増やせないならバスとの連携を強化するなどしてはどうか。私自身、職場の鳥取県から今日こちら（香美町）に来ようとした時によい便がないというのは実感した。通勤者向けにも、駐車場とのセット割引などを検討することも必要では。

（香美町長）

- ・令和5年度の予算にむけて、来年1月末までに予算を確保し、来年度に向けて準備を進めたいと考えているところ。

（豊岡市長）

- ・豊岡市には6つの観光協会があるが、これまでひとつになって動いている感じはほぼなかった。インバウンドの方の導線（ゴールデンルート）として、大阪-神戸-姫路-竹田城というゴールデンルートを作ろうという意向もあった。こちらで作ったルートに観光客を誘導するのも大切であり、そういう意味では観光連合のようなものも必要では。より現場に近いメンバーで具体的なことを進められるチームを近いうちにつくるのはどうか。

（但馬県民局長）

- ・年内に山陰本線 WT 検討結果をとりまとめることについては、いったん達成できたと考えている。一方で、関貫市長からの指摘の通り、積み残しの方が多いため、事務局は県民局が引き続きしながら、今後もこの形の WT は続けさせてほしい。ものによっては、他の方からの助言が必要なものもあるので、そうなれば、別の方に入ってもらうことになる。

（JR 兵庫支社長）

- ・これらの議論については、すぐに解決できるものではないが、4つの路線のうち、一番未来志向で考えてくださっており、沿線地域の方たちとの連携もとれていると感じる。
- ・沿線市町の皆様が共通認識を持って議論に参加していただいております、一緒に躍動する但馬をつくっていきたい。

（但馬県民局長）

- ・みなさんのご協力をいただき感謝申し上げます。ラウンドテーブルへの報告は終わりではなくて始まりだと思っている。今後も沿線地域の活性化に取り組んでいきたいと考えているので、引き続きよろしくお願ひしたい。